

KUROSAKI'S WORLD

The Israel Goldman Collection

ゴールドマン コレクション

河鍋曉斎の世界

2026
10.10 SAT - 12.6 SUN

【開館時間】10:00～17:30 ※展示室の入室は17:00まで
 【休館日】毎週月曜日 ※月曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館。
 【観覧料】一般:1,500円(1,300円)/70歳以上:800円(700円)/大学生以下 無料
 ※()内は前売及び20名以上の団体料金。収蔵品展・ロタン館も合わせてご覧いただけます。 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、特定医療費(指定難病)受給者証・指定難病登録者証の交付を受けている方と付添者1名は無料。 ※作品保護のため、会期中展示替を行います。
 主催:静岡県立美術館、朝日新聞社 後援:ブリティッシュ・ミュージアム 協賛:ライブアートブックス(大仲社) 協力:全日本空輸

静岡県立美術館
Shizuoka Prefectural Museum of Art

〒422-8002
静岡県静岡市駿河区谷田53-2
054-263-5755
https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/

私たちは、静岡県立美術館開館40周年も応援しています
 コアパートナー: 株式会社アイエイアイ アイグループ 静岡鉄道株式会社
 はこもろアーツ株式会社 株式会社村上開明堂
 サポーター: 鈴木株式会社

(特別展示) 1. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 2. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 3. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 4. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 5. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 6. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 7. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 8. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 9. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 10. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 11. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 12. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 13. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 14. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 15. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 16. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 17. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 18. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 19. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 20. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 21. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 22. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 23. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 24. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 25. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 26. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 27. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 28. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 29. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 30. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 31. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 32. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 33. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 34. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 35. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 36. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 37. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 38. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 39. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 40. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 41. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 42. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 43. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 44. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 45. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 46. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 47. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 48. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 49. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 50. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 51. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 52. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 53. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 54. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 55. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 56. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 57. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 58. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 59. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 60. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 61. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 62. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 63. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 64. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 65. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 66. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 67. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 68. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 69. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 70. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 71. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 72. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 73. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 74. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 75. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 76. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 77. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 78. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 79. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 80. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 81. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 82. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 83. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 84. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 85. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 86. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 87. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 88. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 89. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 90. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 91. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 92. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 93. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 94. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 95. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 96. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 97. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 98. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 99. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 100. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 101. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 102. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 103. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 104. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 105. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 106. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 107. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 108. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 109. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 110. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 111. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 112. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 113. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 114. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 115. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 116. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 117. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 118. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 119. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 120. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 121. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 122. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 123. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 124. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 125. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 126. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 127. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 128. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 129. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 130. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 131. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 132. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 133. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 134. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 135. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 136. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 137. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 138. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 139. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 140. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 141. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 142. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 143. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 144. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 145. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 146. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 147. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 148. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 149. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 150. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 151. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 152. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 153. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 154. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 155. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 156. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 157. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 158. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 159. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 160. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 161. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 162. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 163. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 164. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 165. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 166. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 167. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 168. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 169. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 170. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 171. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 172. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 173. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 174. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 175. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 176. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 177. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 178. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 179. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 180. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 181. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 182. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 183. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 184. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 185. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 186. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 187. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 188. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 189. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 190. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 191. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 192. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 193. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 194. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 195. 河鍋曉斎の「河鍋曉斎の」 19

ゴールドマン コレクション 河鍋暁斎の世界

【展覧会概要】

幕末から明治にかけて活躍し、今なお国内外で高い人気を博す河鍋暁斎（1831-89）。はじめ浮世絵師の歌川国芳、その後は駿河台狩野派の前村洞和・狩野洞白陳信のもとで絵を学び、独自の画風を確立しました。手がけた画題は幅広く、神仙から妖怪、動物、さらに世相を反映した風俗画や戯画に至るまで多岐にわたります。旺盛な創作活動を展開した暁斎ですが、実は静岡県とも縁が深く、沼津に移り住んでいた母親を訪ね、さらに地元の人々とも交友がありました。本展では、世界屈指の暁斎コレクターとして名高い、ロンドン在住のイスラエル・ゴールドマン氏のコレクションより厳選された約 110 件の作品を展示します。その半数以上が日本初出品となる貴重な機会です。卓越した技術と豊かな発想力が織りなす、暁斎の多彩な世界をお楽しみください。



烏瓜に双鴉図

明治 4～22 年

(1871-89)

Photo: Ken Adlard



地獄太夫と一休

明治 4～22 年

(1871-89)

Photo: Ken Adlard

本プレスリリース掲載の画像は、断りがない限り全て、作者は河鍋暁斎、所蔵はイスラエル・ゴールドマン・コレクション。

【展覧会基本情報】

会 場 静岡県立美術館 本館展示室

開催期間 2026 年 10 月 10 日（土）～12 月 6 日（日）

開館時間 10:00～17:30（展示室の入室は 17:00 まで）

休館日 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館。）

観覧料 前売券一般：1,300 円／70 歳以上：700 円／大学生以下：無料

当日券一般：1,500 円／70 歳以上：800 円／大学生以下：無料

団体券一般：1,300 円／70 歳以上：700 円／大学生以下：無料

※企画展ご入場の方は、収蔵品展、ロダン館も併せてご覧いただけます。

※団体のお申込は、企画総務課へお問合わせください。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、特定医療費（指定難病）受給者証・指定難病登録者証の交付を受けている方と付添者 1 名は、企画展、収蔵品展とも無料でご覧いただけます。

主催：静岡県立美術館、朝日新聞社 後援：ブリティッシュ・カウンシル 協賛：ライブアートブックス（大伸社）

協力：全日本空輸

【展覧会に関するお問合せ】

静岡県立美術館（〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田 53-2）

担当 浦澤（学芸課）、漆畑（企画総務課）

E-mail gakupei@spmoa.shizuoka.shizuoka.jp

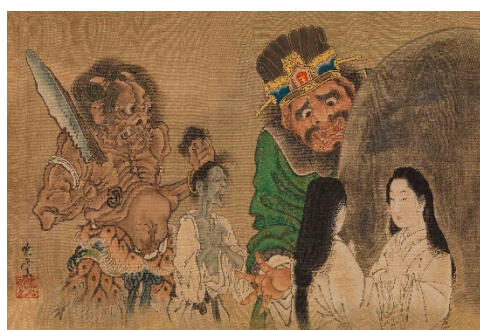
TEL 学芸課 054-263-5857 企画総務課 054-263-5755

FAX 054-263-5742

【みどころ】

1 世界屈指の規模と質を誇る暁斎コレクション！

ゴールドマン氏が蒐集してきた、上質かつ膨大な暁斎コレクションには、暁斎の画業を語るうえで欠かせない、重要な作品が多数含まれています。本展では、コレクションの「顔」ともなっている、名品の数々をご覧くださいことができます。



閻魔大王浄玻璃鏡図
明治4～22年(1871-89) (明治20年/1887か)



蛙の学校
明治零年代中頃 (1870年代前半)



墨合戦
明治4～22年 (1871-89)



左：猫又図
明治4～22年 (1871-89)
中：蝶と菊に猫
明治4～22年 (1871-89)
右：酒吞童子図絵より第13図
明治11年頃 (c. 1878)

本ページ下4点はいずれも国内初公開。



鍾馗騎象図
明治零年代後半 (1870年代中頃)

※このページの画像はすべて Photo: Ken Adlard

3 なんでも描ける！暁斎の圧倒的画力を体感。

本展では主題別に暁斎の作品をご紹介します。人物、動物、神仏、そして鬼と、多様なジャンルで発揮された、圧倒的な画力とユーモア溢れる発想が織りなす暁斎の世界を堪能することができます。

巡回会場共通の特設公式サイトもご覧ください

<https://kyosai2026.exhibit.jp/>

【会期中イベント】**■館長美術講座「ゾウに乗って暁斎の世界へ」** 観覧券不要／申込不要

11月15日（日）14：00～ 講師：木下直之（当館館長） 会場：講堂

当館館長が暁斎の世界を深堀します。

■学芸員によるフロアレクチャー 要観覧券／申込不要

10月25日（日）、11月14日（土） 各日14：00～ 集合場所：第1展示室

担当学芸員が展示室で展覧会の見どころをご案内します。

■暁斎クイズラリー 要観覧券／申込不要

11月3日（火・祝）10：00～15：00 受付：本館前、展示室入口付近

暁斎の作品をテーマとしたクイズラリーです。参加者には素敵なグッズをプレゼント！

■展覧会ワークショップ 要観覧券／要申込

11月23日（月・祝） 会場：実技室

10月初旬より募集開始予定。詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

<https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/>**【同時開催】****収蔵品展 山水画の名品**

概 要	当館コレクションの中から、谷文晁「連山春色図」、池大雅「蘭亭曲水・龍山勝会図（重要文化財）」をはじめとした名品の数々を展示します。
開催期間	10月10日（土）～12月6日（日）
開館時間	10:00～17:30（展示室の入室は17:00まで）
休 館 日	毎週月曜日
観 覧 料	当日券一般：500円／70歳以上・大学生以下：無料 団体券一般：400円／70歳以上・大学生以下：無料 ※「ゴールドマン コレクション 河鍋暁斎の世界」観覧券で、本展覧会とロダン館もあわせてご覧いただけます。 ※団体のお申込／20名以上の団体のお申込は、企画総務課へお問い合わせください。 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、特定医療費（指定難病）受給者証・指定難病登録者証の交付を受けている方と付添者1名は、企画



谷文晁 連山春色図
寛政9（1797）年 静岡県立美術館蔵

【広報用画像】

1		2		3		4	
地獄太夫と一休 明治 4～22 年(1871-89)		蛙の学校 明治零年代中頃(1870 年代前半)		烏瓜に双鴉図 明治 4～22 年(1871-89)		墨合戦 明治 4～22 年(1871-89)	
5		6		7		8	
幽霊図 慶応 4/明治元年頃～3 年(c.1868-70)		閻魔大王浄玻璃鏡図 明治 4～22 年(1871-89)(明治 20 年/1887 か)		半身達磨図 明治 18 年(1885)		蝶と菊に猫 明治 4～22 年(1871-89)	
9		10		11		12	
猫又図 明治 4～22 年(1871-89)		三味線を弾く洋装の骸骨と踊る妖怪 明治 4～22 年(1871-89)		酒呑童子図絵 明治 11 年頃(c.1878)		鍾馗騎象図 明治零年代後半(1870 年代半ば)	

1～6、8～9、11～12 Photo: Ken Adlard

7、10 写真協力：立命館大学アート・リサーチセンター

■展覧会広報用画像の提供

①所属または社名、②担当者名、③連絡先及び住所、④掲載・放送媒体、⑤掲載・放送日、⑥発行部数、⑦希望する画像番号、⑧読者プレゼント用招待券（5 組 10 名様）希望の有無を E メール本文に明記し、次のアドレスまでお送りください。【 gakugei@spmoa.shizuoka.shizuoka.jp（静岡県立美術館学芸課）】

■掲載時のお願い

- ・画像は本展覧会のご紹介のみを目的としてご利用いただき、使用後のデータは破棄してください。
- ・作者は河鍋暁斎、所蔵はイスラエル・ゴールドマン・コレクションである旨をキャプションに明記してください。また、各画像のフォトクレジットも必ず併記してください。

記載例：河鍋暁斎「地獄太夫と一休」 イスラエル・ゴールドマン・コレクション Photo: Ken Adlard

- ・基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙またはデータをお送りください。
- ・掲載後、当館まで紙面を 1 部ご寄贈くださいますようお願いいたします。